



開発教育支援の現場から

函館で高校生国際協力実体験プログラムが行われました

6月25日、5人の研修員(ミャンマー、アルジェリア、シリア、クック諸島、タンザニア)が函館の街を訪れ、熊石高校、上ノ国高校、七飯高校、函館白百合高校、函館商業高校、函館西高校からの高校生27名、そして彼女たちのサポート役の北海道教育大学函館校、北海道大学水産学部のボランティアの大学生5名を加えた32名が様々なワークショップをとおして交流しました。

最初はとまどいをみせていた高校生たちも次第にうちとけ、積極的に研修員に話しかけるようになり、一生懸命勉強した英語で話しかける姿が印象的でした。午後からは『食生活から世界を知る』というテーマで研修員と生徒がグループになり、普段自分たちが食べているものがどこから来るのかを学びました。また、グループに分かれて研修員の国についてインタビューをし、普段聞いたことのない国の話には生徒たちは熱心に耳を傾けました。長時間のプログラムにもかかわらず最後まで参加してくれたみなさんありがとうございます！研修員たちと過ごした時間が高校生活のいい思い出になることを祈っています。

(国際協力推進員(函館) 岡田)



研修員と交流する高校生たち

JICA札幌ニュース



JICA札幌に新しい所長が着任しました —札幌から—

JICA札幌 所長
寛 克彦

皆様、こんにちは。JICA札幌の寛(かけい)と申します。

私どもは、皆様の暖かいご理解とご支援のもと、「よりよい明日を世界の人々と」分かち合うことを旗印に、日々国際協力の仕事に励んでおります。

現在は世界でもトップクラスの国際協力国である日本は、実はつい最近まで援助を受ける側、すなわち「開発途上国」でした。古くは奈良時代に遣隋使、遣唐使を現在の中国に送っているいろいろな技術や文化を勉強し、それを当時の街づくりや各種制度の整備に活かし、音楽や芸術の発展にも寄与させました。また、明治維新には、時の明治政府を担う若者を欧米に派遣し、法・教育・交通制度等を積極的に取り入れ、また産業革命で大きく発展した各種産業を我が国に移入し、その後の日本の飛躍的發展に繋がる国づくりの基礎を築くとともに、明治時代の日本を世界でも有数の近代国家に押し上げました。さらには、第二次世界大戦に敗戦し、まさに灰燼の中にあつた日本に対し、戦勝国である欧米諸国は周囲の反対を押し切り、いち早く積極的に我が国に対し援助の手を差し伸べました。アメリカ政府による占領地救済政府基金であるガリオア・エロア資金、日本救済のためアメリカ、カナダ、中南米からの救援物資をまとめたララ物資、アメリカのNGOケアからの援助物資、ユニセフからの援助物資等が続々と日本に到着し、いろいろ不足していた時代に腹をすかせ病に苦しむ日本の子供たちを始め、多くの人々を救ってくれました。さらには、戦後間もない1953年から導入され始めた世界銀行からの低金利の融資により、東海道新幹線、東名高速道路、黒部第四ダム、愛知用水といった、日本がもっとも必要としたインフラが整備され、その結果、日本はその後驚異的な発展を遂げました。

このように日本は、世界の人々からのさまざまな援助により現在の姿になりました。これまでの世界各国からの歴史的な援助を私たちは決して忘れてはなりませんし、このような援助に対しどのような「恩返し」が出来るのでしょうか？今私たちが暮らす地球上では、130以上の国や地域で約11億人の人々が貧困、疾病等に苦しんでいます。これらの問題は、同じ地球に住む人間として私たち一人ひとりが理解し、国境を超えた人類すべての問題として取り組む必要があります。人間として安心して暮らせる世界をいっしょになって作り、「よりよい明日を世界の人々と」分かち合うことが必要なのではないのでしょうか？

JICA札幌は、北海道の開拓精神を継承しながら、「北海道民の知識と技術」を基盤として開発途上国の国造りを支援しています。具体的には、開発途上国の技術者や行政官に対する北海道内での技術研修や、北海道内の各分野専門家の技術専門家としての開発途上国への派遣、北海道民の皆様をボランティアとして開発途上国へ派遣する青年海外協力隊・各種ボランティア事業などです。さらには、北海道や我が国の将来を担う青少年の人材育成のための開発教育支援事業や、国内のNGOを側面的に支援する草の根技術協力事業といった「市民参加協力事業」も行っていきます。

JICA札幌は、国民、北海道民の皆様が開かれた国際センターを目指し、皆様とともに歩んでゆくことを目指しています。

今後ともJICA札幌へのさらなるご支援・ご協力を頂きますよう、お願い申し上げます。



旭川の研修員受入事業 —旭川から—

春から夏の間、旭川には外国からの研修員が多数来訪します。2カ月ほど旭川に留まる場合もあり、異国での生活に加え、母国語以外で研修を受ける研修員も多く、ストレスが溜まることもあるようです。そんな事情もあり、今回、青年海外協力隊の中南米OBと中南米からの研修員の交流会を6月17日(土)に開催しました。

私のみスペイン語が解らないという寂しい(笑)状況ではありましたが、スペイン語で日本人と交流できた研修員はもちろん、スペイン語を普段話す機会の少ないOBの皆さんも大いに楽しんだようでした。

(国際協力推進員(旭川) 鳥居)



旭川での生活を楽しむ研修員



「映画『ホテルルワンダ』に見るアフリカ」が開催されました —函館から—

7月7日(金)19:00よりシネマアイリスにて『映画「ホテルルワンダ」にみるアフリカ』が開催され、あいにくの曇りの天気にもかかわらず沢山の人の足を運んでいただきました。映画の上映までの間、セネガルの家庭料理、タンザニアコーヒー、南アフリカのビールなどを楽しんでいただき、映画上映後はアフリカパーカッションのリズムをききながら、遠い異郷の地で起こった悲しい歴史に思いをめぐらす人もいたのではないかと思います。その後、青年海外協力隊として当時タンザニアで活動していたJICAの杉山市民参加協力調整員が当時の様子を話しました。この日イベントに参加したひとりひとりが、何かを感じてもらえたら嬉しいかぎりです。

(国際協力推進員(函館) 岡田)



アフリカのパーカッションのリズムを楽しむ函館の方々